

可也七

Vol. 1.3 No. 5

1953年5月



倉敷昆虫同好会

目

次

◎	古びみず虫の研究	清水慶子	0~1
◎	四月の熊山採集報告	小野 洋	2~3
●	日本昆虫学会中国支部		3
●	昆虫研究発表会		4
◎	物見峠採集記	小川大右	5~6
●	会誌より		6と以下
◎	おとしバミ		7~8
	○ 物見峠のイタドリハムシとモ モブトカニキリモドキ	小野 洋	7
	○ 豪溪の蝶2-3	広瀬義躬	7~8
	○ 倉敷市街地産天牛2種の採集 記録	広瀬義躬	8
●	会員消息		9
●	新入会員		9

ちびみづ虫の研究

清水慶子

1952年11月1日に兒島湾のカニ調査に岡大理学部松本先生の手伝に行つた時採集したチビミヅムシ (*Micronecta sedula* HERVATH) が何%までの塩水に生活可能であるかについて調べた結果をお知らせする。

実験は1952年11月7日の夜から11月27日までの20日間で、使つた水は小庭の水鉢の中のもので鉢の底には少し水ゴケが出来ていた。これを0%とし8種類の濃度に分け各々に5匹づゝ入れて調べた。

この結果よりうすい塩水に生れたチビミヅ虫は20%までは生活が可能なきこが分つた。なほこの実験を進めて下さつた小野洋氏に感謝致します。

(実験)

塩の濃度 (%)	途中の死亡数 (匹)	27日(20日後)の死亡数 (匹)
0		0
0.5		0
1	3日後1 12日後1	2
1.5	6日後1 7日後1	2
2		0
3	19時向後5	5(全部)
5	2時向40分後5	5(〃)
10	30分後5	5(〃)

2〔45〕

四月の熊山採集報告

小野 洋

去る4月26日、岡大教育学部の動物学及植物学専攻者10名で和気郡の熊山に採集行を試みたので、こゝに主として昆虫関係のものの報告をしておく。

こゝはずつと以前からナチュラリストの向によく知られた採集地であつて、諸先輩方のしげく足をふみこまれた処で、例のキマダラルリツバナの記録されたのもこのあたりらしく、それもそんなに古い事ではない。

山陽本線の熊山駅で下車、駅前に走っている県道を西下、あたりは種々春の草花が咲きみだれ、モンシロチョウ、ツマキチョウ、キチョウ、ルリシジミ或はミツバチ等が忙がしげに飛び交う。道から入ったところの山のすそを杉林がとりまいてゐる。1つ目の登山口を入るとなんなくこゝに達する。この林中には臍々としてカンアオイが自生しているのであつて、やゝ時期を逸するがギフチョウのせめて卵でもと探しまわつたが1つも発見出来なかつた。2つ目の登山口を入つた所の山際にやゝ開けた空地があつて沢山の石がころがり倒木も見受けられた。ゴミが居そうなので、ひざますいてかたっぱしからはぐつて行くとミミズやハサミムシの他にヤコンオサムシ3頭、アオゴミムシ多数、マルクビゴミムシ1頭、他ゴミムシ1種が出て来た。

附近の山は大木が非常に少くつて、小蘆木が多く、山火事の跡が見られるしかなりの広い範囲に伐採が盛んである。少しばかりクヌギやナラが見られたが負弱でわずかにコツバナ、ミヤマセセリの諸君にお目にかゝつた。山道は悪くはないが急なところが続く、この附近でツバナシジミが多かつた。よほど登ると道は多少平坦になつて、コバノミツバツツジ等ツツジの仲間のもを絳つていて、キマダラヒカケや本年最初のクロアケハ1個体を見た。背の低いアカマツの林がとても多

い、クマバチのいつもの姿が見られるし、向にはシヤクカヤトビケラの連中がわたつて行くのが眺められた。清水がわき出でて、そばにひしやくが置いてあつたので皆のどを鳴らす。アナコボが片隅にじつとしている。こゝから頂上近くの油壺神社まではすぐで、この向アカタテハテンクチヨウを見た。クロナクラアブが時折出てくる。

昼食後一行は香登町に向つて下山した。この道も又急な所があり、虫もあまり出て来そうにない。ラリハムシの外ハムシではバラルリサルハムシ、ムツボシサルハムシ程度。路上のハンミョウは多いがニワハンミョウはそんなに見られない。ホソミイトトンボと、もうずつと香登町に近く降りてからカワトンボが多かった。もう雌雄共出現してにぎやかである。やはりかなり降りたところの路傍でトラフトンボ1早、タバサナエ1を網にした。更に附近でミツボヨツチカナムシを得た。レンゲにはヒゲナガハナバチが多い。

香登町から万富駅まで吉井川迎を歩く。こちら側の山をいはいや、闊葉樹林があつて、断層のあざやかなのが見られた。青野氏は本日の熊山のシヨクガバエについてしごく平凡であるともらしていた。吉井川の水は豊で、この路ではカワケラ1種、ヒナウラナミジヤノナ、キマダラヒカゲ、ルリシジミ、アゲハの外ヤマトヨリアゲが極めて多かつた。

日本昆虫学会中国支部

カ一回例会

新発足の中国支部ではカ一回例会を次の通り開催致します。会員外の同好者の研究発表及び聴講も歓迎。本同好会の方々も多数御参会下さい。

期日 6月7日(日) 午前9時開会 学術講演、記念撮影
昼食会、学術講演、

場所 倉敷市住吉町 岡太大原農業研究所講堂。

物見峠採集記

小川大右

1953年5月10日午前5時29分発の津山線で岡山を出発した。私は唯一人で岡山・鳥取県境の物見峠へ出かけました。目的は、今までの腰中着的昆虫採集行を自分だけでやってみたいと云う私自身の欲望と、物見峠附近に産すると云われるエソスミレ系統のスミレをとる事だったので、その為服装は至つてモノモノしく、桐乱2ヶにリュックと虫取用のネット、それに根掘りと剪定鋏を持ちまるで荷物に足が生えた様な恰好だつたと思う。岡山から約2時間半位、美作河井の駅へ降りた私は、ワラジ採りラド掘りに行く人々と共にしばらく歩き、彼らが途中から大ヶ山へ向けて道を左にとつた所で別れ、私は更に真直にぶらぶらと歩いた。町をはずれてから、いよいよ採集にかいり、先づ川の上をひらひらと飛ぶカワトンボをとり、林木についている真赤な体のカミキリを管びんに入れる。かくして、山吹の花散る山道を蝶とたわもれ、トンボと遊べ、スミレをつんで、しばし10年以前の童心に正返つてしかも注意深く(少くとも私自身はそう思つた)山道を登つたのであつた。しかし勿ら、如何に注意深き観察眼を以つてしても、逃げ行く虫だけは如何ともし難く、いさゝか弱つたあげく近づいて来たものに対して網を振り、中に入った虫だけとる事とし逃げた奴は可哀そうなので一切追はない事にしました。その結果帰つて小野洋氏に同定して頂きましたものは下記の通りです。極めて普遍的なものばかりですが再度博学の士の採集行をお奨め致します。

- | | |
|-----------|--------------|
| ◎ タテハチョウ科 | ワカハチケョウ (春型) |
| | コミスジ |
| | キタテハ |
| ◎ セセリチョウ科 | ミヤマセセリ |
| | コチャバネセセリ |
| ◎ シロチョウ科 | スゾグロシロチョウ |

ツマキチョウ

◎ ジヤノナチョウ科 キマダラヒカゲ

◎ アゲハチョウ科 キアゲハ

以上のチョウ類の外、ホソミイトトンボ、カワトンボ、シオヤトンボのトンボ類、ヒナスギカミキリ、イタドリハムシ、クロムネオオハバチ?、(オオツマグロ)ヨコバエ、モモブトカミキリモドキ、が管ビンの中に入っていました。

河井の駅附近からの山相はコナラ、アベマキ等の潤葉樹、アラカシ、ウラジロガシ等の照葉樹を主体としており、又人工植林による杉林が多くみられた。下草は笹が多く、その他の小灌木は他處と変りがない。峠附近は山の急斜面に一面ナタネを植えている所があり全山を黄色で飾っていた。ラド及びイタドリ(サイジンコ)の大きなのが非常に沢山生えて居りワラビをとっている人も見受けられた。この辺は蝶が少く山は笹とフジの花でおおいわねている。目的のスミレは見出し得なかつたが、私の胸糞には、イカリソウ、イチリンソウ、スミレの4種、マシヨウモクズラ等が一杯でありクジヤクシダもその美しい翼を横えていたのでした。この採集行で感じた事は虫と草と一人で一ぺんに採りにいく事は結局一兎をも捕え得ないと云う事でした。今一度今度は虫屋と共に完全な調査に出かけ度いと考えております。

“会だ”より

本会主催の昆虫研究発表会は、5月10日午後2時より大原農研講堂に於て、会員16名参加のもとに下記順序で盛大に執り行われ、にぎやかな懇談を最後に幕を閉じた。

◎ 開会の言葉

◎ 研究発表

(1) イラカ壺の中で越冬せる生物

近藤光彦氏

(2) 中国地方に於けるホシミスジ

の分布とその特異性

広瀬義躬氏

(以下9ページに続く) ※

『おとしふみ』



“物見峠のイタドリハムシ とモモブトカミキリモドキ”

物見峠は岡山県の東北部、鳥取見との県境、因美線物見トンネルの極く近くで、中国山脈の深くにある。去る5月10日、こゝで採集したと云う昆虫を2・3小川大右氏に見せていただく機会を得たのでその際気づいた点を報告しておく。

(1) *Galerucida bifasciata* Motschulsky イタドリハムシ

本種、翅鞘の非常に変化に富んだる帯紋、これが、県南部のもの(三石附近ではかなり多産する)では普通で黄色を呈するが、山地産のものにしばしば見られるように、やはり本個体ではこれが甚しく濃く橙色化していた。

(2) *Oedemera lucidicollis* Motschulsky モモブトカミキリモドキ、本種、前甲板の中央に赤褐の1縦線を有するものが多いが

本個体は全面濃藍色を呈するものであつた。

(小野 洋)

豪溪の蝶 2・3

豪溪からは最近水野弘造君によってムラサキツバナ、ハリグロウアバネセセリ等興味ある種が発見され今後も同君の手によつて精密な調査がなされると思うが、ここにわずか三回の採集から得た2・3の知見を記して御参考に供したい。

1. アサマイチモンジ、本種は豪溪日ノ出旅館手前の河原にイチモンジと混棲して多産する。VII-26 1950小野悦夫君等と共に数頭を採集した。

2. アサヤマガラ、豪溪よりも南の当地方でも近年はよく採集されるが、それでも珍しい種に属し決して採れるのは秋である。本例も同じく秋の例でX-5、1949学校からの遠足の際、豪溪天柱ヶ峯下附近の溪流上に本種の優姿を目前に見つても網なく無念の涙をのんだ。

3. ダイミョウセセリ、VII-26 1950アサマイチモンジを求めて河原の灌木の茂みを探索中1頭の本

8(51)

種を目撃したが採集出来なかつた。この他豪溪には岡野幹男氏によればクロツミナシジミを採集出来る由でありスヌボソヤマキチョウの記録もあるから、なかなか面白い所である。しかしZephyr-trisは大きな潤葉樹林が附近には見当らないので、さして期待出来ない。蛇足ながら豪溪はその名の如く溪流に恵まれているので蜻蛉類の採集地としては、本誌Vol.3 No.1, にも水野君の報告のある如く非常に有望な地であることを附記しておく。〔広瀬義躬〕

倉敷市街地産天 牛2種の採集記 金

1. ムリカミキリ, *Tetraopss fortunei japonica* SHAN, 倉敷に於ける本種の産地は、白神昭氏が既に本誌Vol. 1 No.4¹⁾に羽島¹⁾と旭町No.6²⁾に鶴形山を挙げられたが、筆者も市内住吉町で1951年7月中旬、イチジクの葉裏に止っている1頭の本種を採集した。

2. ラスバカミキリ *Ear-*

podas sinica sinica WHITE, 本種の記録も白神昭氏が本誌Vol.1 No.4¹⁾に鶴形山を産地として挙げ、1頭を記録されているが、その後は一昨年(1951)の倉敷市児童生徒科学作品展覧会で陳列標本の内に市内向市場町で採れた1頭の本種を見出した位のもので記録はない様である。1952年3月4日同じく鶴形山で小野洋氏等と採集中近藤氏が2頭、友野氏が1頭計3頭がエノキの大木の樹表にて採集された。内1頭は近藤氏から筆者がいただけりて所蔵している。これら両種はいずれも鶴形山(標高30m弱)を中心とする市街地域にのみ産し北部福山山塊から記録はない。

追記: 脱稿後小野洋氏に伺ったところによると"尾崎山畑の諸君によれば上2種の内ラスバカミキリは鶴形山に多産するとの由であった。

1) 白神昭(1951): 倉敷の天牛数種に就いて, すずもし1(4): 23

2) ——(—): 鶴形山のカミキリ数種, すずもし1(6): 36

〔広瀬義躬〕

※ (3) 総社地方の蝶相について、 水野弘造氏、

◎ 会則改正案審議、

◎ 記念撮影、

◎ 講演、 潛葉性双翅目概説、

岡山大学農学部害虫学研究室、 小泉鬼治先生、

◎ 山会の言葉、

★ 懇談、

尚当日、参加された杉山幸平博士に新に顧問になつていただきまして
のでお知らせしておきます。

“会員消息”

◇37. 河田和雄氏 岡山大学農学部を本年3月卒業。岡山大学
大原農業研究所作物害虫研究室に就職された。尚卒業論文
は「ダイコンアブラムシの生態」。

◇38. 船越俊平氏 現在稲田第四小学校教員をしておられる。
住所は以前と同じ。

◇40. 西村公夫氏 一時鳥取市吉方町359に住所変更。

◇41. 水野弘造氏 本年3月総社西中学校を卒業、4月総社高
等学校に入學。

“新入会員”

◇55. 原承敏秋氏。

◇56. 道信順氏。

“編集後記”

のみもいとにくき頃
とりました。皆様の
御協力により、ここに
本号をお届けいたします。

すずむし		第3巻		第5号	
昭和28年	5月30日	印刷	近藤光彦		
倉敷市住吉町		岡山大学	大原農業研究所	作物害虫研究室内	
倉敷昆虫同好会					